

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落による事故）

事故概要：

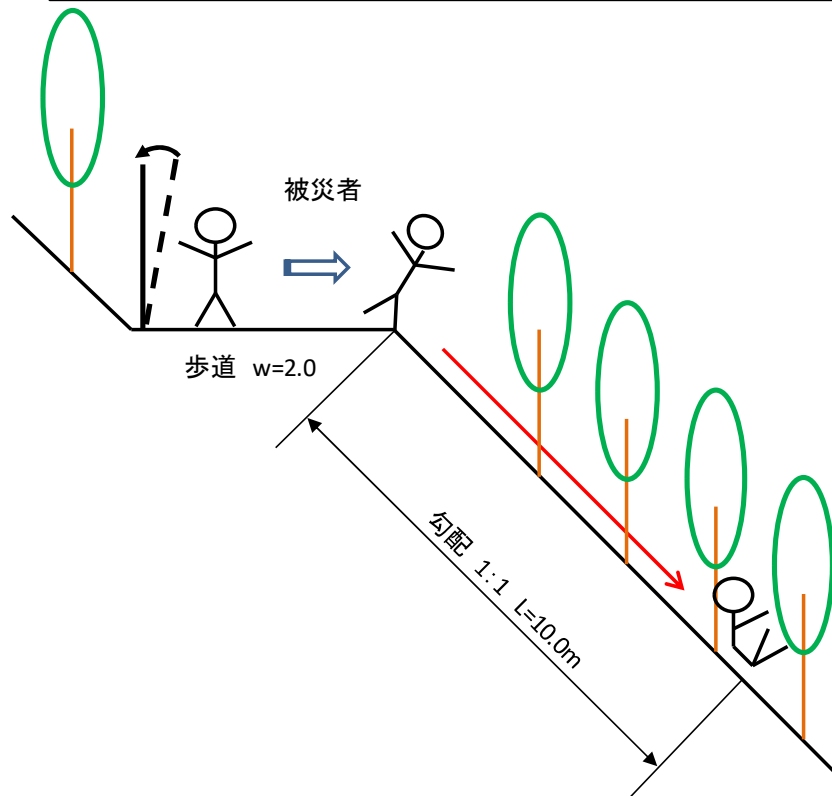
歩道の路面整備にあたり、被災者が作業箇所に向かったところ、地元で設置した獣害防止柵が倒れ掛かっているのを発見したため、補修し、出来栄を確認しようと移動した際に足を踏み外して転落し負傷した

事故原因：

- ・本人の不注意

改善対策：

- ・安全教育の徹底
- ・トラロープと赤旗にて地山との境界を明確化する



分類：準備工、その他

被害状況：6週間の加療（両恥骨骨折、仙骨骨折、右腸骨骨折）

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（転倒による事故）

事故概要:

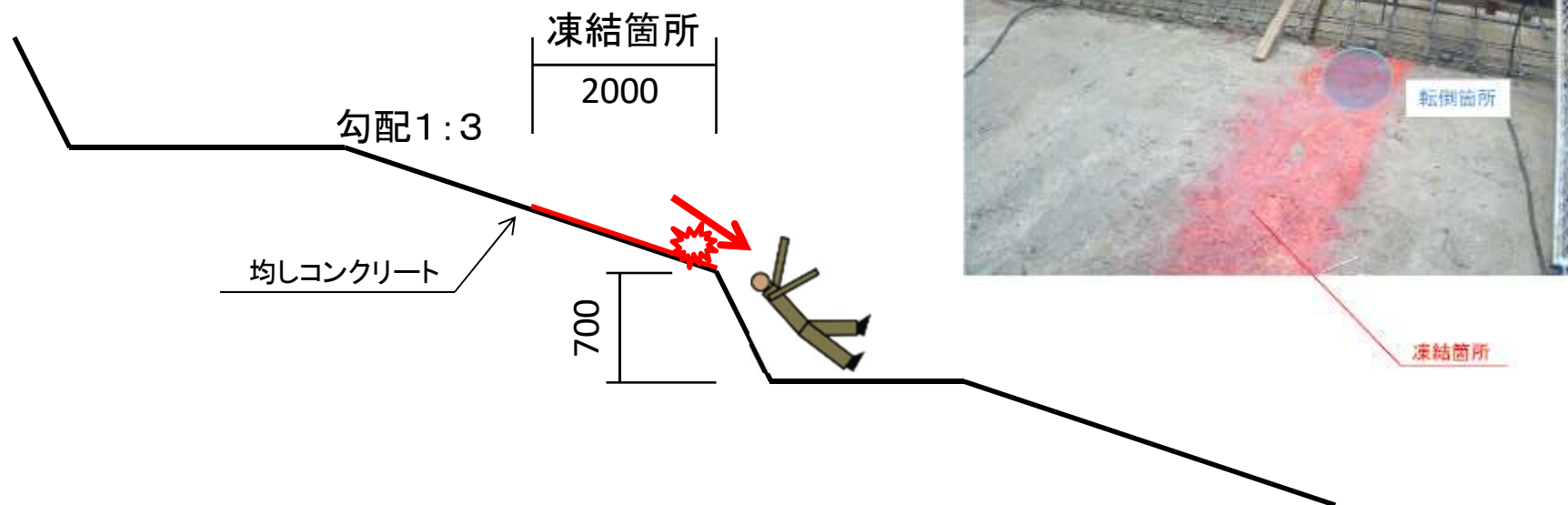
生コン打設に先立って、打設高さの測量を行う前に現場の状況を確認しようと歩いていたところ、コンクリート上にしみ出した水が凍結していることに気づかず歩いたため、足を滑らせ70cmの段差を落ちて負傷した

事故原因:

- ・事前に安全な通路を通るよう指導していなかった
- ・危険予知の認識不足

改善対策:

- ・通路には安全ロープ等の安全対策を講じる
- ・安全教育の徹底



分類: 準備工、その他

被害状況: 4週間の安静加療(右足関節外果骨折)

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（交通事故）

事故概要:

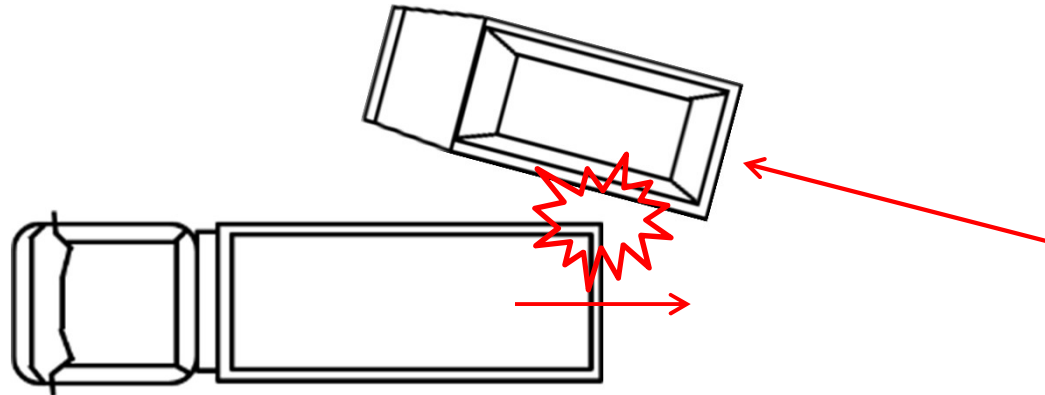
散水作業中に対向車が来たため、散水を止めて一旦車両を左側に寄せて停止させ、一時停止のために散水できなかった区間の散水を行おうと車両をバックさせたところ、散水車を追い越そうとした後続の一般車両に接触し、車両左後のボディーを損傷させた

事故原因:

- ・本人の不注意

改善対策:

- ・安全教育の徹底



分類: 準備工、その他

被害状況: 一般車両左後のボディーを損傷

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（飛来物・落下物による事故）

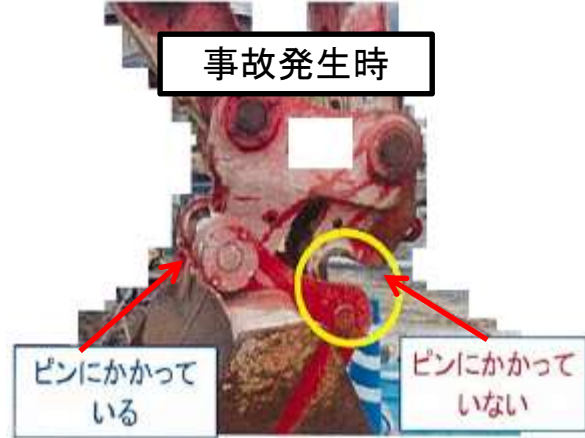
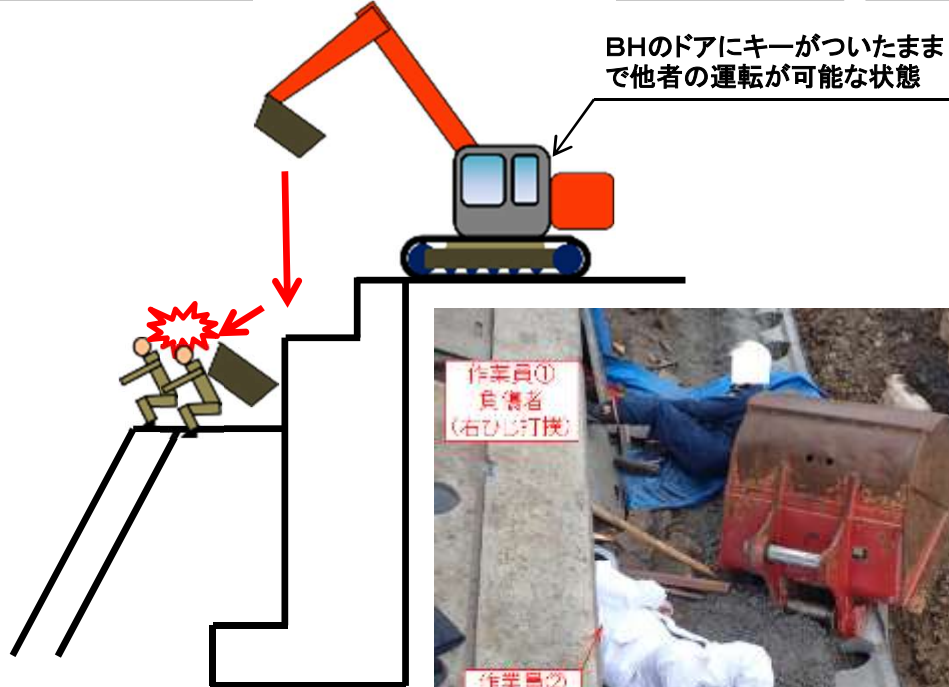
事故概要：
コンクリート打設作業の手元が暗かったため、選任ではない別の重機運転手がバックホウの照明で明かりをとろうと動かしたところ、アームとバケットの接続が不十分だったためバケットが外れ、下方で作業していた作業員2名に当たり負傷した

事故原因：

- ・接続が不十分な状態が明らかになっていなかった
- ・重機選任の運転手ではない者が重機を運転した

改善対策：

- ・固定されていないことが明らかな状態を徹底する
- ・他者が運転できないよう鍵の管理を徹底する



分類：準備工、その他

被害状況：10日間の安静加療（右肘関節打撲傷他）、4週間の安静（頸椎捻挫他）

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械による事故）

事故概要:

作業員が高圧洗浄機のエンジンを始動しようと、スターターノブを引っ張った際にデコンプレッションレバー（減圧弁）を作動した状態にしていなかったため、スターターノブを引きぬくことができず、引っ張った衝撃で右手を負傷した

事故原因:

・高圧洗浄機の作業手順を十分に理解していなかった

改善対策:

・安全教育の徹底



デコンプレッションレバー（減圧弁）



分類: 準備工、その他

被害状況: 約1か月間の加療(右環指末節骨骨折)

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落による事故）

【事故概要】

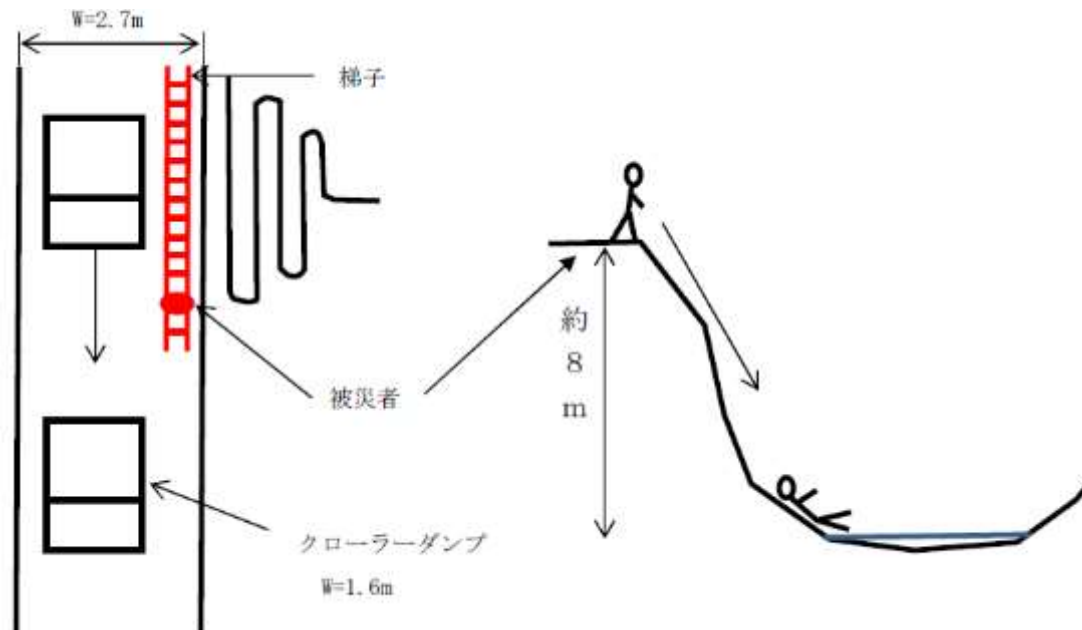
溪間工仮設工事の準備作業中、工事用道路の路肩（谷側）に立ち工事車輛の通過を誘導していた作業員が、工事車輛が通過した後、足元に置いてあった梯子に足を引っ掛け、梯子もろとも8.0m下方の谷へ滑落し、負傷する事故が発生した。

【事故原因】

- ・誘導場所、退避所を事前に決め関係者に周知していなかった
- ・資材を整理整頓していなかった
- ・工事用道路に関し、路肩等の危険個所が明示されていない

【改善対策】

- ・安全な誘導場所、退避所を確保するとともに、安全教育を徹底する
- ・路肩等、危険個所を明示する



分類: 準備工、その他

被害状況: アキレス腱断裂、膝蓋骨骨折、橈骨遠位端骨折(3か月安静加療)

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（ 挟み込みによる事故 ）

公園内の橋梁補修工事現場への移動中、車両を方向転換させるため、園内坂路を後進で昇ろうとしたが、後輪がスリップした。作業員1名が坂路下方から車両前面を押し動かそうとした際、車両が坂路を降下したため、背後に設置されていた転落防止柵との間に体を挟まれ負傷した。

【事故原因】

・本人の不注意
(車両が坂道を降下する可能性があるにもかかわらず、車両と転落防止柵の間に入った)

【改善対策】

・狭く勾配が急な園路区間については、転回が必要な車両の乗り入れを中止する(徒歩移動とする)
・安全教育の徹底



【分類】準備工、その他

【被害状況】骨盤骨折、8週間加療見込み

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（転落による事故）

【事故概要】

220tクレーンを骨材製造設備の中段ヤードから一次破砕ヤードへ移動する作業において、トレーラー運転手が、カウンターウェイトの荷締めを終了し、トレーラー前方の高さ1.1mの昇降箇所からスタンション（鋼製パイプ）につかまりながら後ろ向きに降りようとしたところ、地面に転落し、左の頭、肩、膝を打った。

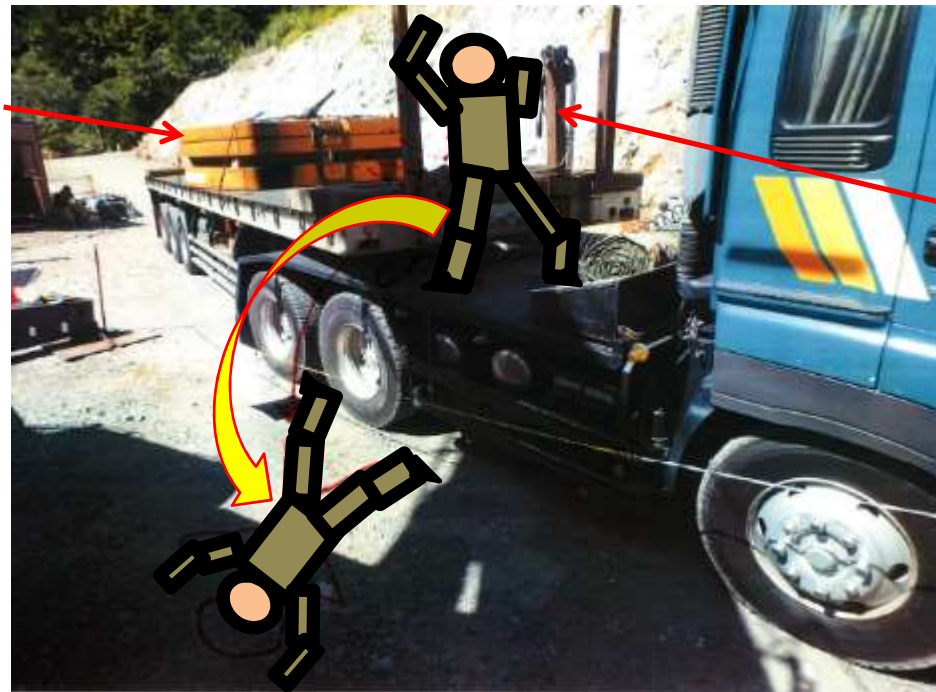
【事故原因】

・KY活動時には、昇降時に転落する危険を想定し、立馬を使用するよう具体的な対策を明記し、現場も使用できる状況にあったが、被災者の運転手まで対策が徹底されておらず、上位請負会社の職長による安全対策の確認も不十分であった

【改善対策】

・荷台上の荷締め・荷解き作業で1.5m以上の荷台に昇降する場合には、必ず立馬を使用する
・短期（スポット）で入場する作業員にも、KY活動を実施するだけでなく、元請職員や上位請負会社の職長等が、常に目を配り、安全対策を徹底させる

カウンターウェイト荷締め



スタンション

【分類】 準備工・その他

【被害状況】 軽い脳震とう・外傷なし（休業なし）

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（出水による事故）

【事故概要】

7月4日より降り始めた降雨により、河川水位が上昇し、転流工吐口及び上流仮締切を越流した流水が、ダムサイト下流の河床進入路を洗掘した。

洗掘は、骨材貯蔵ヤードにまで及び、ヤード内に駐機してあったバックホウ(0.8m³)、ユニック(4t)及び高所作業車が洗掘により転倒した。また、河床進入路に設置してあった給排水管(8吋)及び単管手摺も洗掘により転落した。

【事故原因】

・転流工の計画規模を超える出水により、下流骨材貯蔵ヤードが越流水等により洗掘されることを十分想定せず、重機等をより安全な場所に移動していなかった

【改善対策】

・台風などで大きな出水が考えられる際には、骨材貯蔵ヤードに重機類は駐機せず、出水の影響のない範囲まで退避させる
 ・転流工吐口の様子をリアルタイムで確認できるよう試験室屋根にWEBカメラを設置、また転流工呑口付近に量水板を設置し既設のWEBカメラで水位状況を把握する



【分類】 準備工、その他

【被害状況】 バックホウ(0.8m³)、ユニック(4t)、高所作業車、給排水管、単管手摺

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落による事故）

【事故概要】

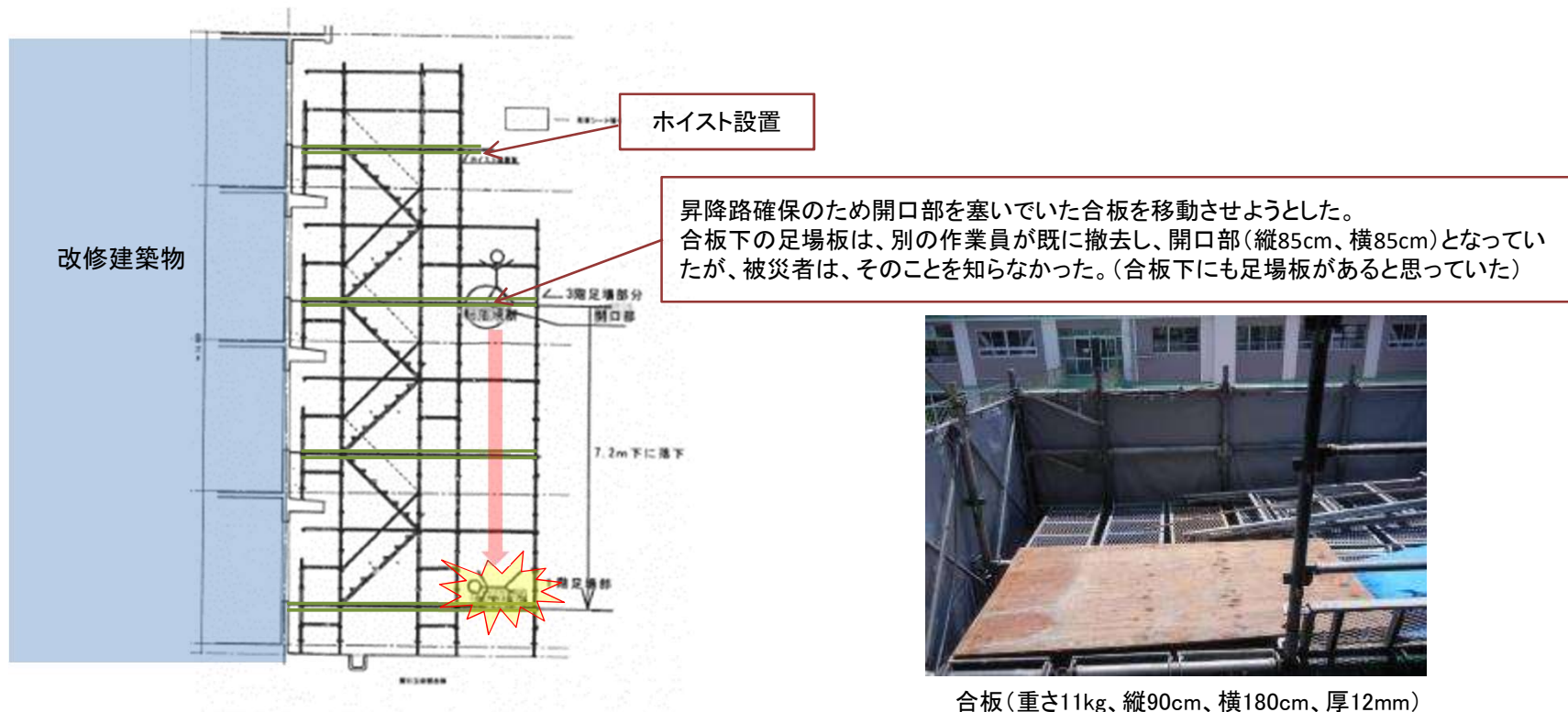
便所改修工事によって出た資材ごみを仮設2階作業床から地上に降ろすため、外部仮設足場にホイストの設置及びその昇降路を確保する作業を行っていた。ホイストチェーンの昇降路を確保するため、3階作業床の開口部を塞いでいた合板を移動させようとした際、足を滑らせて足場1段目まで落下した。

【事故原因】

- ・合板下の足場板が既に撤去されている等の危険個所の情報が作業員間で共有されていなかった
- ・高所作業であったにも拘らず安全帯を着用していなかった

【改善対策】

- ・各工程内容を作業員間で情報共有するため、朝礼や現場巡回の際、コミュニケーションを取りながら周知する
- ・安全帯の着用を徹底する
- ・開口部等危険個所には、トラテープまたはトラロープを設置し注意喚起するとともに、落下防止のための手摺等を設置する



【分類】 準備工、その他

【被害状況】 腰椎横突起骨折（3週間程度の安静必要）

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（交通事故）

【事故概要】

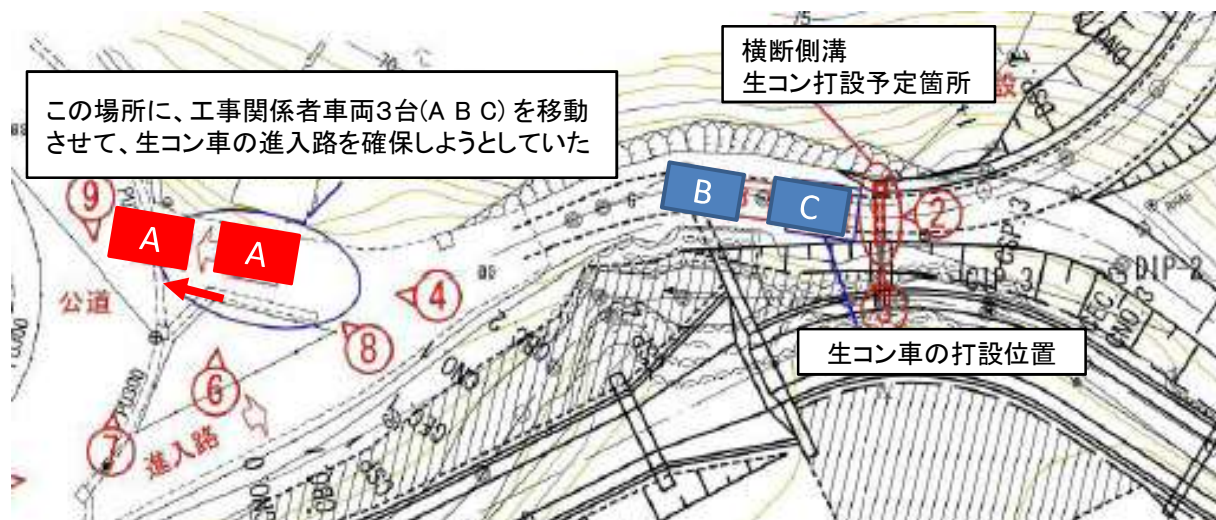
生コン車の進入路を確保するため、工事関係者の車両を移動させようとしたが、エンストしたため降車し車両周辺を確認していたところ、停車位置が坂路であり停車措置が不十分であったため、車両が動き出し、止めようとした被災者が転倒し左膝を負傷した。

【事故原因】

- ・被災者が駐車した車両ではなかったため、駐車措置（車止め等）の有無を認識しておらず、エンスト後に確認のため降車した
- ・降車時の停車措置（サイドブレーキ等）が不十分であった

【改善対策】

- ・停車措置（サイドブレーキ等）、駐車措置（車止め等）の確実な実施及び乗降時の車両周辺確認の徹底
- ・人為的ミス防止のため「工事車両の駐車時の注意事項」を現場に掲示し、KY活動記録、安全巡視日誌により確認し記録する



「工事車両の駐車時の注意事項」

- ・降りるときはサイドブレーキをしっかり引く。
- ・降車したら運転席側に車止めをする。
- ・工事車両の乗降時には車両周辺の確認をする。

【分類】 準備工、その他

【被害状況】 左膝前十字靭帯断裂（手術後・リハビリ予定）

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

【事故概要】

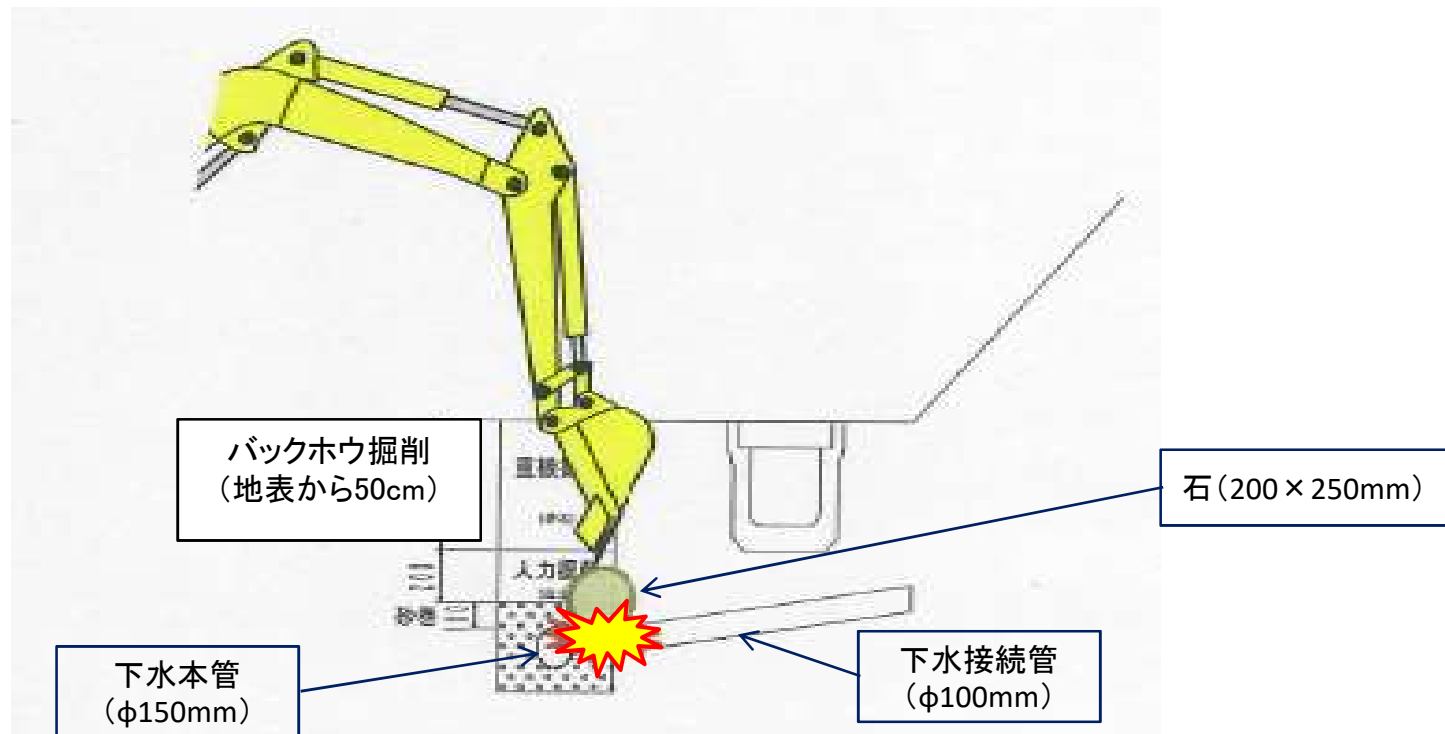
上下水道管の位置を確認するため、上下水道管理者立会いのもと試掘を行い、本管位置を確認した後、引き続き下水接続管の試掘を行っていた。接続管は地表から80cmの位置に想定されていたため、50cmまでバックホウで掘削し、残りは人力で掘削を試みたが、地盤が固く掘削が困難であったため、再びバックホウで掘削を行っていたところ、バケットの爪が下水接続管の上にあった石にあたり、その石が動いたことにより下水接続管(φ100mm)が破損した。

【事故原因】

- ・バックホウ掘削に切替える際に、立会者及び現場代理人の指示を仰がず単独で判断した
- ・立会者及び現場代理人が掘削箇所を直接目視できる位置にいなかった

【改善対策】

- ・作業前に試掘作業の注意点を周知するだけでなく、作業中においても注意喚起を行い、適切な現場管理を行う
- ・立会者や現場代理人が目視できる状態でのみ作業を行い、状況の変化に応じて指示が出せるよう徹底する



【分類】 準備工、その他

【被害状況】 下水接続管(φ100mm)破損（住民不在のため影響なし、翌日復旧完了¹²）

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（交通事故）

【事故概要】

交通規制の準備中に、強風で設置前の仮置き回転灯が倒れ、通りかかった一般車両が損傷した。

【事故原因】

- ・風が強かったにもかかわらず、機材の仮置き時に、重しを掛ける等適切な対応を取らなかった。
- ・長期にわたり施工時の交通規制をしていたことから、気が緩み強風に対する認識が薄かった。

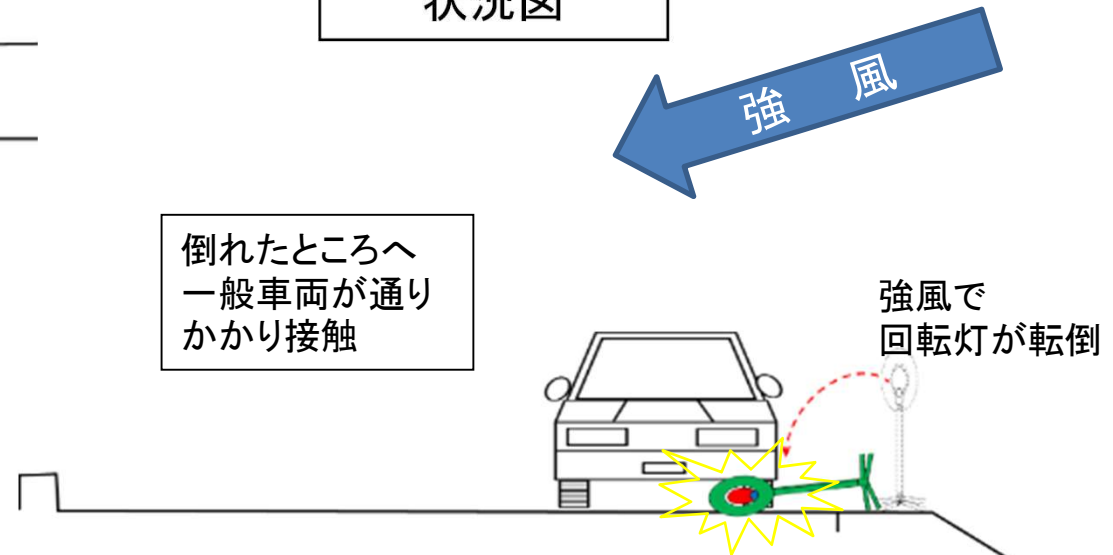
【改善対策】

- ・今後も強風が予想される現場であるので、機材転倒防止の重しを確実に設置する。
- ・交通規制準備時の機材転倒防止として、仮置きでも直ぐに重しを掛ける。
- ・本事故事例を踏まえた安全教育を実施する。

事故状況平面図



状況図



【分類】 準備 その他

【被害状況】 公衆災害 一般車両 1台 バンパー損傷

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（転倒事故）

【事故概要】

大型ブロックを用いた現道拡幅工事において、一時的に盛土した搬入路で足を滑らせ、後ろ向きに転倒し、右脇腹を地面に打ち付けた。

【事故原因】

事故当日は、重機搬入のために一時的に盛土(1:1.5)を行ない、確認のため盛土の斜面を徒歩で下っていたところ、足を滑らせ転倒した。盛土には比較的大径な石が含まれており、足元の確認が不十分であったことが原因。

【改善対策】

・足元が不安定、狭隘など注意を要する箇所に「足元注意」の注意喚起を促す看板を設置する。

事故現場状況



被災時は覆工板はなく、重機搬入用の盛土(1:1.5)がしてあった。

【分類】 準備工 その他

【被害状況】 業者人身 右第10、11肋骨骨折